

古河ロックドリル製  
クローラードリル仲間入り



4月にデモをしていただいた古河ロックドリル社製のHCR900を導入しました。今回は現有のエピロック社製T25を残し、原石探掘の能力を上げるため、当面2台体制とすることとしました。クローラードリルは、砕石製造において一番上流工程である発破作業を担う機械です。派手さはありませんが、黙々と原石供給を続けられることを期待します。

ころがる石  
中田篤孝コラム

～イーハトーブ理想郷いわて～

岩手県は未だに感染者はゼロが続いている。6月23日の岩手日報の記事で、岩手県立中央病院の医師・看護師千人の抗体検査したところ保有者はゼロだったという記事があった。

最も感染リスクのある医師・看護師を千人も検査して一人の抗体も発見されなかったということだ。岩手のゼロに関しては様々な疑問もあるかと思うが、これで岩手がゼロであることを裏付けされた。

岩手の人は我慢強く、まじめな人が多いのではないかと思う。そして、宮沢賢治が岩手を理想郷という意味で「イーハトーブ」と呼んだが、まさしく「イーハトーブ理想郷いわて」が証明されたと思う。しかし今後は越県も許される中、関東方面では変わらずコロナの蔓延がくすぶり続けている。第2波、3波が来るといわれているが油断すれば、本当に感染が広がっていくのが分かる。これから夏に向かってマスクは熱がこもり熱中症の心配もあるが、水分を十分に取り、手洗い、手指の消毒、密などにはなるべく行かないなど、感染対策に配慮しての生活はまだ続く。

今、岩手県民が一番恐れるのは、自分が岩手県第1号になることである。秋田では周りの風評でそこに住めなくなり、引っ越した人もいと聞く。やはり恐ろしいのはコロナよりも人なんだと思う。ゼロが続く一番の理由かもしれない。



～バージンの価値～

春から予定していた運搬路の舗装修繕工事を実施した。運搬路は急勾配で曲線部分は重量物がハンドルを切るの痛みが早い。そこで今回トラックスケールへの侵入部分を試験的に2層仕上げを実施することとし、舗装部分を剥ぎ取り路盤を転圧再生して舗装することとした。30年以上舗装を下支えしてきた路盤材C40～0は細粒化や団塊化はほとんど見られず、新材と変わらない状態であった。これが再生路盤材だったらどうだっただろう。世の中は資源を循環する時代である。一度目の循環には耐えられても二度目の循環には機能を維持できるだろうか。

使用条件や機能、性能を見極めつつ、適材適所の判断が必要なのではないかと感じた。これから技術的にもコスト的にも資源の循環が進むであろう。バージンの適正な価値と評価を見直すべきかもしれない。運搬路は段差がなくなりガタンという衝撃音がしなくなった。



人間たちは6月に衣替えである。僕は余計な服は持たない主義で、生涯黒のトラ縞である。暑かろう、寒かろうと心配してくれるには及ばない。

夏には太目の毛で密度を薄くし、冬には細い毛を密集させて体温調節が可能なので猫の世界に熱中症はない。そんなことを知らない人たちから、夏用のベットと麦わら帽子をいただいた。ありがたく使わせていただいている。僕たちの夏バテ解消法は、「快眠、快食」そして、「無駄に動き回らないこと」である。しかし人間は給料をもらうために動かざるを得ない宿命がある。これからが夏本番「限界を知り無理をしなさんな」と忠告したい。

今月の一言

「いい仕事はいい休養から」



雑記

新年度が始まって3か月、コロナ禍で多くの行事が中止になり空白な毎日かと思いきや、日常にはいろいろなことがあるものです。

1. 白昼堂々



平日の午後3時、原石運搬のダンプが往来している時間帯に下平地区の真ん中でカモシカの親子に遭遇した。目が合っても堂々としている。「私たちの住民票はここにありませんよ」と言っているように見え、「共存よろしく」と念じながらシャッターを押した。

2. 健康診断

体形が丸みを帯びて、俊敏性がなくなり、日々これではいかんと思いつつ1年が過ぎ、あまた健康診断がやってきた。ありのままの姿こそが健康診断の目的なのだと思い直してみても、通知表と同じで少しでもいい点を取りたい。ともあれ、1年1度現実を自覚することが大切なのだ。

3. 永年勤続表彰

三上弘志さんが日本砕石協会から30年の永年勤続表彰を受賞しました。コロナの影響で表彰式はありませんでしたが、全国表彰の栄誉は変わりません。社内には勤続30年予備軍が続いています。長く勤められる魅力のある会社を目指したいものです。おめでとうございます！

編集後記

自粛中、手作りマスクに凝ってしまい、たくさん作って身内にふるまいました。

もしかしたら・・・カラフルなのばかり作ったので迷惑だったかも(苦笑)